

輝く瞳 未来に向かって

# 体文会報

大仙市立豊成中学校  
体育文化後援会会報

令和2年3月6日

第6号

「自主・清美・勤労」

## 『チーム一丸!』

豊成中学校体育文化後援会  
会長 鈴木清仙

それは正に破竹の勢いのような快進撃でした。昨年の夏、豊成中野球部は生保内中との合同チームで各地区大会を勝ち抜いた19チームで覇権を競う「第85回全県少年野球大会」に出場し、見事、合同チームとして初出場・初勝利を収め校史にその栄光を刻みました。

2回戦の秋田東中との対戦後の校歌を“エビ反り”で斉唱する姿は、一昨年の甲子園での金足農業高校を思い出しました。

合同チームは3年生が主体のチームで、互いに信頼し合い、個々の力を最大限発揮すべき、メンバーが同じ目標に向かって、練習段階からやるべきことを確認し、コミュニケーションを取り合ってきた最高の仲間になっていました。

「個」のつながりがチーム全体のレベルアップになる。「チーム力」は、単なる足し算ではなく、掛け算として算出されるような力。今回の合同チームは、そんなプラスの力を超えた『掛け算』の答えが出たのではなかったかと…!

昨年夏に開催されたラグビー・ワールドカップ(W杯)日本大会で、「ベスト8を目指す」と公言した代表選抜の奇跡的な躍進は、日本中に勇気と感動を与えてくれました。同時に「俄(にわ)かファン」が多く出来、ラグビー熱が一気に高まりました。

どこに転がるか分からない楕円形のボールの行方は、正に人生を象徴するようで、一つのボールをひたすら前につなぐ姿や相手の頑強な体躯の選手に執拗にタックルする懸命さは、見ている者を熱く興奮させ魅了しました。

選手たちが、会見で語った『ONE TEAM (ワンチーム)』とは、一つの目標に向かって一人一人が役割を自覚し、達成するための努力をするという意味でした。

チームの約半分が外国人選手の日本代表は、「結束」することを最大のテーマとして掲げたスローガンであり、選手同士の士気の高揚だったと思います。

『チーム一丸』…二つの合同チームの話題から、どこか似ていることを感じながら熱く暑い夏が過ぎ去りました。

最後になりましたが、豊成地区住民のみなさまには、今年度もまた、中学校の体育・文化活動に心温まるご支援をいただき心より厚く御礼を申し上げます。

今年度も各種大会で、粘り強く…諦めない気持ち「ワンチーム」の心意気で活躍してくれましたことは、地域の応援団として誇りに感じます。

ご承知のように、豊成中学校は、令和3年度より統合となりますが、それまでは現状維持であり、チーム編成など厳しい状況が続きますが、試合に出場できる喜びをかみしめながら、懸命なプレーを続ける選手の皆さんに、引き続き地域のみなさまの温かいご声援をよろしくお願い致します。

